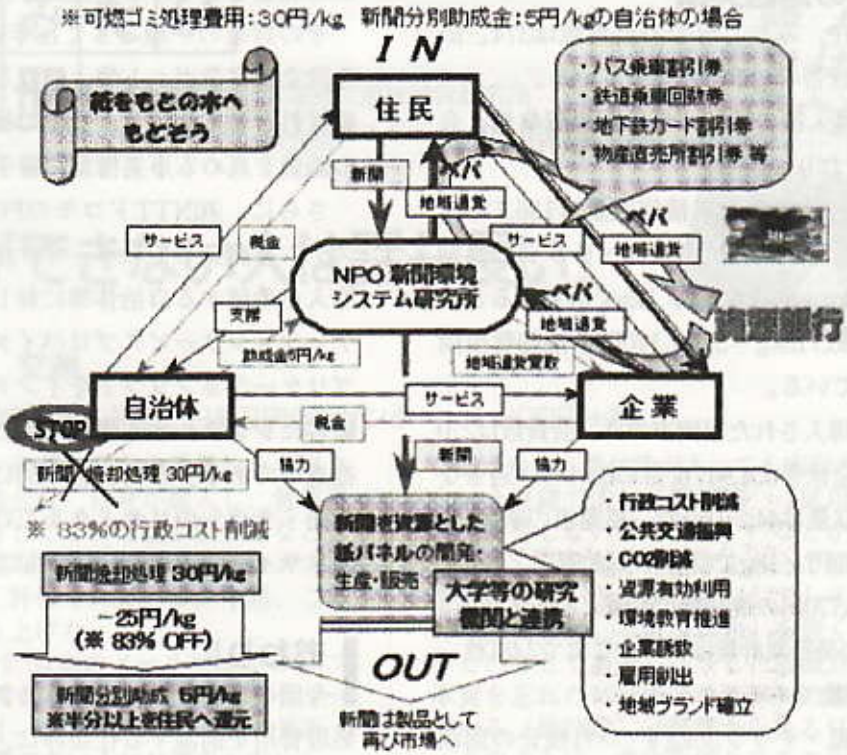

出所：NPO法人新聞環境システム研究所資料

図1　新聞資源リサイクル促進システムの概要

田町）のうち、福岡市とみやこ町、苅田町の3市町からの助成金である。

例えば、みやこ町の場合は、「集団回収奨励金」として、古紙回収30kgあたり150円が支給されている。このなかから、交通事業者に80円を支払い、残りの70円を運営費に充当している。

ペパ及びリサイクル促進システムの認知度向上については、NHKや新聞等のマスコミでの記事掲載や、公報等での告知が大きな役割を果たしている。

また、参加者や参加希望者等に実際に運用方法を理解してもらうためには、現場におけるスタッフと対面で交流することが重要となっている。

ペパの使途は、豊津町（現みやこ町）、苅田町、行橋市では太陽交通バス・タクシー、平成筑豊鉄道、物産直売所「国府の郷」で、福岡市では福岡市地下鉄カード、西鉄バス・鉄道カード、JR九州鉄道カードの購入に前述した割合（1枚当たり80円）で割引券として利用することができる。

なお、ペパの額面が30ペパと中途半端な数字で、割引金額として使える80円ともリンクしていない理由は、30という数字を打ち出すことで、30kgの新聞紙・チラシのリサイクルに貢献したことを参加者に感じてもらいたいと考えているためである。

また、ペパのデザインは、鉄道線路が手前から奥に延びている図柄で、印刷はモノクロの簡易なものである（図2参照）。これは事業持続性を高めるため、なるべく余計な経費はかけないという主旨による。

図2　みやこペパ

しかし、このようにデザインが簡便であることは、経費節減という利点がある一方、偽造のハードルも低くなるという欠点も有することになる。

これに対し、ペパは、1枚30ペパ＝80円と低額にしていること、1回あたりの使用限度を決めていること（1回3枚＝240円分）、利用方法を割引券型にしていること、発行には研究所の押印を必要としていることで、偽造発生の可能性を低めている。